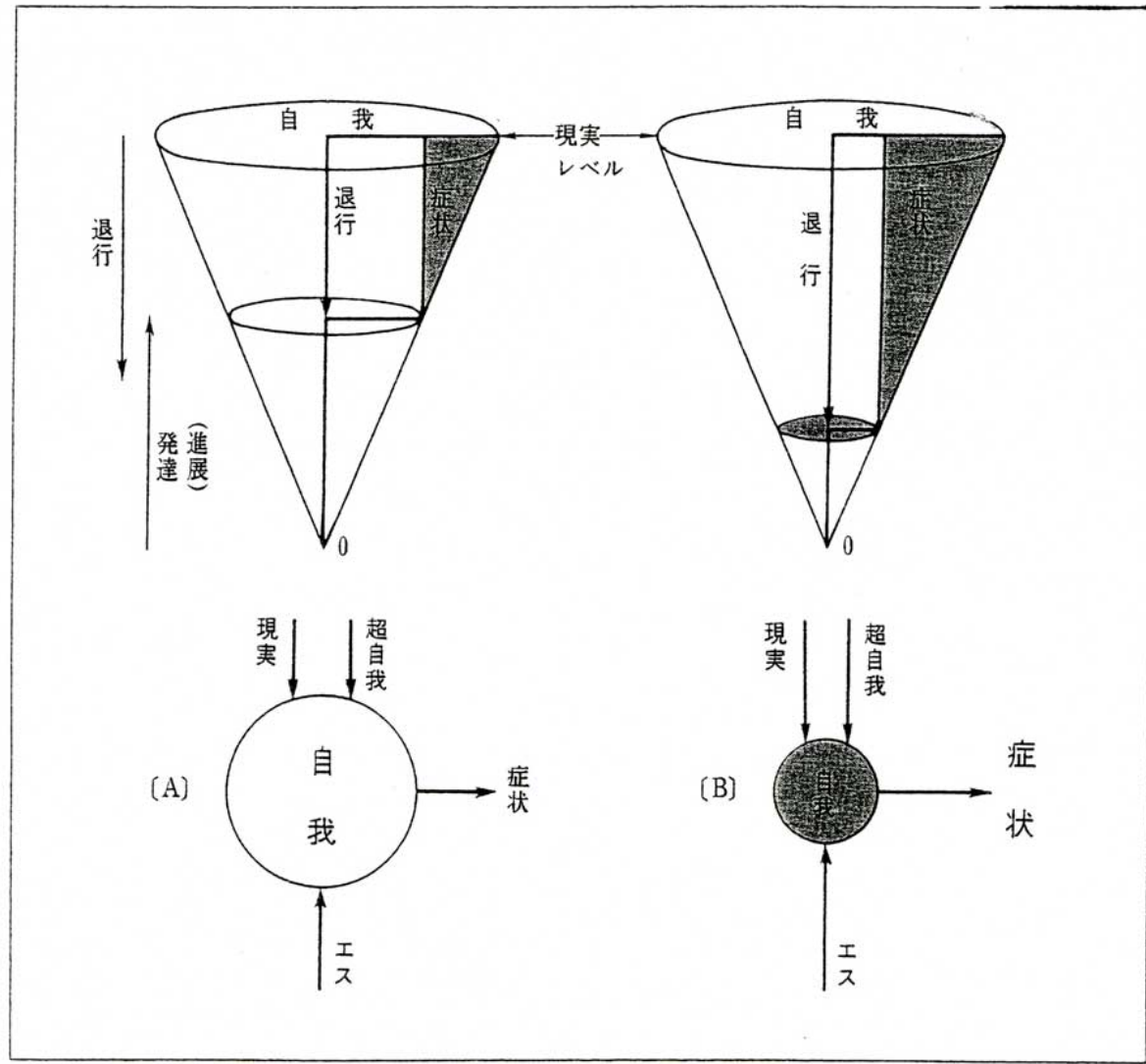


おもな防衛機制(神経症的防衛)-2

取り入れ 同一視(化)	相手の属性を自分のものにする。同化して自分のものとする(取り込み)。 相手を取り入れて自分と同一と思う。自他未分化な場合は一次的同一化(→融合, 合体)	相手にあやかる 真似	○ ○	○ ○
投射(投影)	相手へ向かう感情や欲求を, 他人が自分へ向けていると思う。	疑心暗鬼を生ず	○	
合理化	責任転嫁	いいわけ	○	△
知性化	感情や欲動を直接に意識化しないで, 知的な認識や考えてコントロールする。	屁理屈	○	△
逆転 自己への反転	感情や欲動を反対物へ変更する(サド→マゾ, のぞき→露出, 愛→憎) 相手へ向かう感情や欲動を自己へ向けかえる(対象愛→自己愛, 対象への攻撃→自己攻撃)	天に向かってツバを吐く	○ ○	
自己懲罰	罪悪感を消すために, 自己破壊的な行動をする。	罪滅し, つぐない	○	
合体	相手にのみこまれる。象徴的な同化(融合)	一心同体となる	○	△
解離	人格の統合が分離してしまう。		○	

○……用いられる。 △……用いられる場合もある



退行の水準と症状の重篤さ

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房

フロイトとユングの理論的違い

- 1) 無意識についてフロイトのいう個人的無意識のさらに下層に普遍的無意識と呼ぶ深層世界を想定した
- 2) 神経症を対象にしたフロイト、統合失調症を対象にしたユング;扱う世界の違い
- 3) 無意識を肯定的にとらえるユング
フロイト;意識から排除された汚物に満ちた、性衝動を中心とした個人的無意識の世界
ユングは普遍的無意識を想定し、ヌミノース(聖なる次元)を扱う
- 4) 一神教(自我という英雄元型) vs 多神教
自我が無意識を完全に支配することをめざすフロイト
自我の相対化、自我=自己枢軸を目ざすユング

ユング心理学の特徴

- 1) 自分の深層を体得することで、生きていることが今より少し楽になる、苦手な人がそれほど苦手でなくなる
- 2) 通過儀礼(死と再生); 老賢者、障害者 VS 永遠の少年、英雄、健康 = 投影の引き戻し作業
- 3) 豊かな生命エネルギーが充満し、あるがままの自分(否定的自分をも自分の一部として)を引き受けられることができる
- 4) 自分が大いなる生命の流れとつながっていることを実感する(自我の相対化、大いなる我とつながること)

II. ユング心理学

ユング心理学を学ぶ目的

- ① 生きていくことが今より少し楽になる、苦手な人がそれほど苦手でなくなる
- ② 通過儀礼(死と再生)；老賢者、障害者 VS 永遠の少年、英雄、健康＝投影の引き戻し作業
- ③ 豊かな生命エネルギーが充満し、あるがままの自分(惨めである)を引き受けることができる
- ④ 自分が大いなる生命の流れとつながっていることを実感する

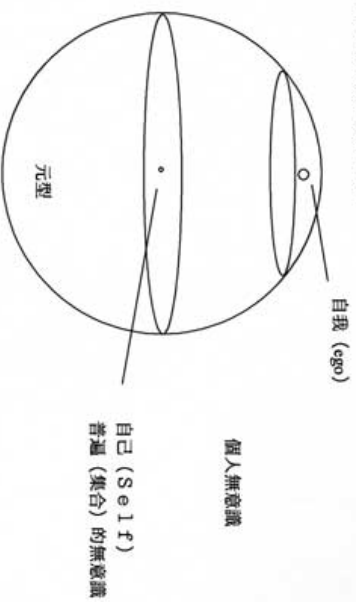
「これからの自分を知る」 普遍的(集合的)無意識の探求・・・主体的水準での解釈

- ① 自己存在を根元的に支えるもの
自我の相対化ということ・・・一神教から多神教へ、“one of them”の感覚
これを体験しないと、次の次元に進めない(自我の放棄＝明け渡し、悟るための準備＝「アレ」
自己 (Self) 元型・・・自我＝自己根幹
様々な元型・・・個人を超えた普遍性の中の自分

② イメージの力に委ねる

夢分析を通して見えてくるもの
アケライブ・イメージネーション、箱庭、コラージュ療法、フリーム・ワーク
危険が伴う元型との出会い・・・自我肥大(エゴ・インフレーション)、無意識の活性化、自我が元型の力
に乗っ取られる(悪依体験)、カルト現象に類似

分析心理学＝普遍的無意識を想定する



ユングのこころの図式

元型の諸相；ウロボロス・グレートマザー・父元型・自我・ヘルツナ・影・アニマ・アニムス、
トリックスターと王様、自己、老賢者、障害者元型、インチキ医者、健康、等々

個性化（自己実現）の道

自己探求は自分自身をより富ませること、より充足させること
自分を呪縛している両親の価値観に気づいて、それを相対化する作業
他人が引いたレールの上を無自覚に歩むのではなく、独自のユニークで創造的な生き方を模索する

基本的には今、現在のペルソナの明確化に専念する；

影の気づき
トリックスターの働き
アニマ・アニムスの発展状況

ペルソナ・・・アニマ・アニムス

影（オモテウラ、建前一本音）

ペルソナの不明瞭さ・・・未発達だと影もはつきりしない。生活臭がない人ニウラのない人、薄っぺらな人、あるいは二重人格を生きている人

自分の中に多くの影を包含し、自在にそれを生きている人・・・それを可能にするトリックスター
精神病院当時の性的に堅物なパーソナリティの影との統合作業

小我を捨てて大我につく
腫床ベチン師の自分・・・死んだふりと二枚舌
いかがわしき・・・寝め殺しの心理、怒鳴ってから「なんちゃって」と
ミニスカートを女子高生を「嬉しい」と人前で平気で言えるか
無責任、狼狽さ、腹黒さ、いい加減、胡散臭さ
社会的にダメージなものも許容する態度
トリックスターを思う存分に使い切ることも必要、一歩間違うと社会的信用を失い、非難され、疎外される

老人元型；頑固、ひとつのことにこだわり続けること、容易に変わらない、その中から見えてくる真実（知恵）、ひとつ所から動かない遠き通った目、我欲を捨て、現実を超えた地平で純粋になる。真実、自己一致、純粋性と呼ぶもの、妥協しない頑なさ、伝統を守り、その中の大切なものを引き継いでいく。古老の教え（川の冠蓋箇所、地震の際の津波の危険性を予兆する）

過去に還元する（因果関係に終息）のでなく、未来に向けて意味を見いだす、創造すること
個人の置かれた位置（コンステレーション＝星座）を把握する；自分を呪縛する多くの常識、良識、世間体、あるべき姿

ペルソナの形成、それを身につけ、自在にこなしていくこと（安住、墮落）とそれを打破する永遠の繰り返し；常に新陳代謝が求められる＝影の働きとトリックスターの働き

影・・・自分が取り組むべき課題
統合すると次の影が登場する；そのレベルや深さがポイントとなる

人格としての成熟；力量を増す、人間としての懐の深さ、清濁合わせ持つvs汚濁にはまみれない
いろいろなタイプ（常識的には排除される）人を許容する
<影元型と障害者元型の論文>

グレートマザー vs 永遠の少年
父 vs 父の娘
ペルソナ（自我同一性）形成
影元型

夢分析の2水準

1. 「今の自分を知る」個人的無意識に光を当てる・・・客体水準での解釈

①意識で把握される自分

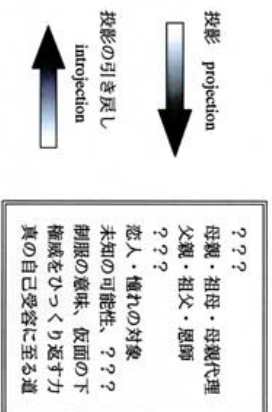
- a 自分のパーソナリティ・・・タイプ論
 基本的態度としての 内向-外向
 心理機能としての 思考-感情 (合理機能) vs 直観-感覚
 8タイプの布置

b 対人関係の基本的パターン

内的宇宙

ウロボロス
 グレートマザー (母、女性)
 父 (神、王、英雄)
 影
 アニマ・アニムス
 永遠の少年・老賢者
 ペルソナ
 トリックスター
 被害者・健康

外的現実 (神のパル 人間パル)



②今の自分を形成した源を探る

- a 育った地域の歴史、土地柄、風土 (気候、環境)。地域の中の一族、家族、家の歴史
 b 家族力動・・・親子関係 (F-C-C-D、P-S-C-D)、父や母の生育歴、出会いと現在まで
 c 両親のダイナミックス、同胞と権執
 自分史を見直す・・・乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、初老期、成熟期
 家族 (父母) の人生の歩みとの関連の中で布置されている
 同世代 (仲間の人々) とのかかわり
 成長・成熟を促す要因・・・親かい人たち vs 阻害し、妨害する人々 (グリムが教える)
 d コンプレックス、PTSD、個人的精神病理・・・運命性を受容、引き受けるといふこと

フロイトとユングの理論的違い

- 1) 無意識の捉え方：無意識を積極的、肯定的にとらえるユング
 意識から排除された汚物に満ちた無意識=性衝動を中心としたイド
 エミノース (聖なる次元の深層) を想定する
- 2) 一神教 (自我という英雄元型) =自我が無意識を完全に支配することをめざすフロイトと、
 多神教 (元型論) 的立場から自我の相対化をめざすユング
- 3) 夢を始め、描画、箱庭、コラージュ等によりイメージを扱うことの多いユング
 言葉を厳密に定義して、あくまで言葉でのやりとりを重視するフロイト、意識化させること

自分を形成した源を探る

- 1) 育った地域の歴史、土地柄、風土(気候、環境)
- 2) 地域の中の一族、家族、家の歴史
- 3) 家族力動;親子関係、父や母の生育歴、家族力動
- 4) 生育史をたどる;同胞との確執
- 5) 現在までの成り立ちを丁寧に調べていく
- 6) あとは夢に導かれるままに、導師と一緒に無意識に沈潜する。夢に専念できる環境をどこまで準備できるかが勝負
- この世に自分が生きる意味を実感する



ユングの分析心理学に 基礎を置く自己実現の歩み

～個性化過程とは何か？～

夢分析の目的

- ユング派教育分析の目的は健康な人を意図的に傷つけて、通常では体験しないような深い病理を生きる
- 夢分析による自己理解；夢を通して無意識を日常的に身近なものとし、現実世界と無意識世界の二重性を実感する。自我の相対化、客観性の習得
- 未知の他者、常識や自分の限界を越える人々、苦手な人たちを受容し、受け入れることの意味
- 対人援助活動（心理療法）における理論的枠組み（内的成長・成熟の法則性）
- 夢分析が内的世界だけなら、分析は失敗。現実的日常生活に適用できて初めて力を持つようになる